

日本：貿易統計（2015年9月）

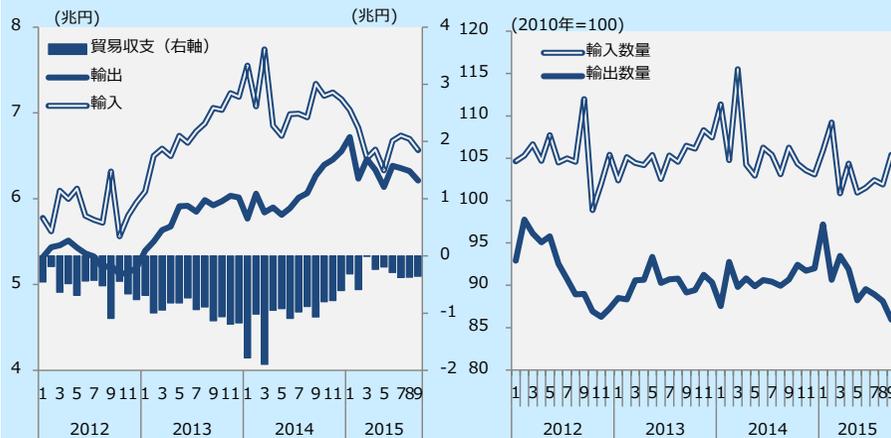
—輸出数量は6年ぶりの低水準—

MRI Daily Economic Points

October 21, 2015

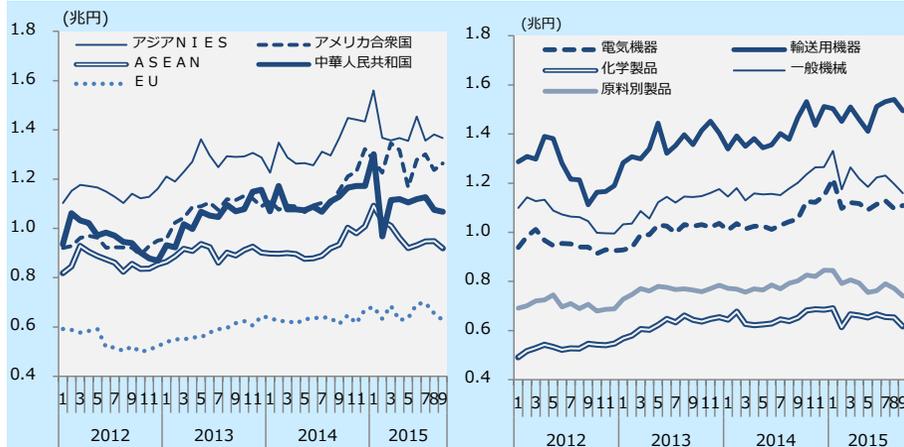
貿易収支

輸出入数量



資料：財務省「貿易統計」。いずれも季節調整値。輸出入数量は三菱総合研究所による季節調整値。

地域別輸出金額／品目別輸出金額



資料：財務省「貿易統計」。三菱総合研究所による季節調整値。

評価ポイント

2015年9月の結果

- 2015年9月の貿易統計（名目）は、輸出金額が季調済前月比▲1.7%（前年同月比+0.6%）、輸入金額は同▲1.9%（同▲11.1%）となった。貿易収支は、季調値で▲3,557億円と前月（▲3,735億円）からほぼ変わらず。
- 輸出数量は基調済前月比▲2.5%※（前年同月比▲3.9%）、輸入数量は同+3.4%※（同▲2.0%）となった。輸出数量は、2009年9月以来6年ぶりの低水準となった。輸出数量を地域別にみると、中国、ASEAN向け、米国向けで減少傾向となっている。
※三菱総合研究所による季節調整値。
- 輸出の動向をより詳細にみるため、輸出金額を地域別にみると、中国向けの減少が鮮明となっている。内訳をみると、鉄鋼や一般機械などの下落が目立つ。ASEAN向けも一般機械や半導体などを中心に、年初以来減少を続けている。米国向けとEU向けは、輸出の増加は一服しているものの、輸送用機械が増加するなど底堅い動きとなっている。
- 輸出金額を品目別にみると、鉄鋼が昨年冬以降需給が悪化し、2014年12月をピークに同月から15年9月にかけて約▲20%と大きく減少していることから、原材料製品が減少している。また、金属加工機械など一般機械、有機化合物など化学製品も減少している。一方、輸送用機械は、中国を除く大半の地域で輸出金額を伸ばしており、好調を維持している。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、年初以降、減少を続けている。中国向け、ASEAN向けの輸出は、減少傾向を強めている。品目別にみても、一般機械や鉄鋼、半導体などアジア向けが中心の品目で減少が目立つ。
- 輸出の先行きは、米国の景気拡大と欧州の緩やかな回復がプラス材料ではあるものの、中国経済をはじめとする新興国経済の減速を背景に、今後も弱い動きが続くと見込む。新興国経済の減速が長期化すれば、その影響が世界の貿易停滞・生産活動の抑制につながりかねず、先行きのリスクは高まっている。